

理科部門

総評

時間をかけて調べまとめているものの、「調べるだけ」で終わっている作品が多く見られました。それらの作品からは興味や気、根気などが伝わってくるだけに、大変残念です。しかし、その中でも今回の受賞作品は自分で考え、試行錯誤を行った結果が表れている作品ばかりです。

理科部門では、特に実験・観察・調査の基本について指導をする必要性を感じます。条件を決めて実験・観察・調査を行い、まとめる際には「結果」と「考えたこと」を分けて記述する、という一点を指導することで、子ども達のやる気や興味が活きる作品が増える、と思います。



文部科学大臣奨励賞

水の上に立つけたのナゾ(比重とふ力の研究)

神奈川県 葉山町立葉山小学校 4年
澤入 深太

身近なところから研究テーマを定め、自分にとって必然的な科学を追究しているところが高く評価されました。研究動機から実験内容、まとめ、そして次のテーマに至るまで、一貫性をもっており、組んだ点がすばらしく、内容も明瞭で面白く仕上がっています。自分を浮かせるにはどうすればよいかなど、ユニークな試みにも驚かれます。この経験を活かし、次のテーマにもあった「空気の比重より軽く、空に浮く」乗り物の研究にも是非チャレンジしてほしいと思います。

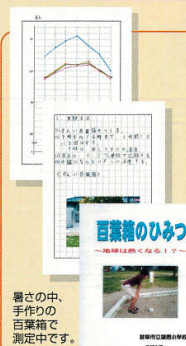


子どもの文化・教育研究所 理事長賞

百葉箱のひみつ〜地球は熱くなる!?〜

岐阜県 岐阜市立城西小学校 5年
森 理人

理科の学習で感じた疑問をきっかけに、自分で実験器具(かんい百葉箱)を作り、いろいろな条件で測定を行っています。測定結果に基づいてしっかりと自分の考えを述べているところが、高い評価を得ました。条件を考え設定し、自分なりの予測を立てた上で地道に測定を行うことにより、説得力の高い作品となっています。研究結果は百葉箱のひみつだけでなく、地球環境にまで考察を発展させているところも素晴らしいです。



全国中学校理科教育研究会 会長賞

滑りやすさと材料や表面の関係について 静止摩擦係数の測定

神奈川県 茅ヶ崎市立中島中学校 1年
山本 祥貴

日常の疑問を動機に、「静止摩擦係数」についての実験にチャレンジした作品です。材料を変えて8通りの測定を行った結果をグラフに表し、自分なりの考えだけでなく今後の課題についてもきちんと述べています。今後は、「結果」や「考察」など、用語の使い方を工夫すると研究結果が伝わりやすくなると思います。



日本初等理科教育研究会 理事長賞

アゲハチョウの挑戦

徳島県 徳島市立福島小学校 5年
永田 真理奈

スケッチにより、写真だけでは見逃してしまうような細部まで観察し、実物大のスケールで幼虫の成長の様子を伝える工夫がされています。チョウの羽化観察器を工夫して作ったり、さなぎになる瞬間を撮影したりと、興味を持って前向きに研究を積み重ねたことがうかがえる大作です。



全国小学校理科研究協議会 会長賞

赤松公園のセミたち

東京都 白百合学園小学校 3年
山田 理乃

「木の周囲1m50cmの範囲内にあるセミの穴の数を数える」という一定条件の下、公園内の木すべてのデータをしっかりと取った結果、観察を行っているところが評価の対象となりました。木の特徴やセミの穴の形態、セミの羽化に至るまで、観察すべきものを的確にとらえることができています。

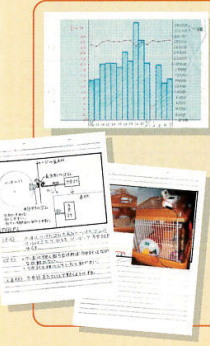


中央出版株式会社 社長賞

ハムスターはケ月でどこまで走れるか?

東京都 白百合学園小学校 4年
森永 萌夏

作品タイトルが興味深く、面白いですね。滑車の回転数から走行距離を割り出すために、どのような手順を踏むかのアイデアには、苦労した様子があがきます。徹底的に読解したいという情熱と、自分のベクトルに対する愛情がとても伝わってくる作品です。



優秀賞

打ち水で暑さをふっしょせ!

神奈川県 茅ヶ崎市立松浪小学校 6年
飯田 紫苑

じしゃくのふしぎ

岐阜県 揖斐川町立谷汲小学校 3年
竹中 京香